

Sumitsubo in One Hundred Forms

墨壺百態



1 | 墨壺（水龍）成孝作

名称	Sumitsubo in One Hundred Forms / 墨壺百態
会期	2026年3月7日（土）～5月10日（日）
会場	竹中大工道具館 1F ホール
開館時間	9:30～16:30（入館は16:00まで）
休館日	月曜日（祝日の場合は翌平日）、年末年始
入館料	一般 1,000円、大高生・65歳以上の方 700円、中学生以下無料 ※常設展観覧料を含む
主催	竹中大工道具館
公式サイト	https://www.dougukan.jp/special_exhibition/sumitsubo

「Sumitsubo in One Hundred Forms / 墨壺百態」展広報事務局（竹中大工道具館内）
 〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1
 TEL: 078-242-0216 FAX: 078-241-4713
 E-mail: sumitsubo@dougukan.jp

糸を弾いてまっすぐな線を引く道具「墨壺」。大工にとって欠かせない道具ですが、いつしか美しさや遊び心を込めた造形も生まれました。流れるような形、細やかな彫刻、動物や縁起物をかたどったもの、時には巨大で使えないほどのものまで。そうした文化は日本だけではなくアジアにも広がっています。本展では、世界の墨壺約100点を集め、その豊かなデザインと物語をご紹介します。

総展示品数
約100点



2 | 墨壺（水龍）成孝作_前面



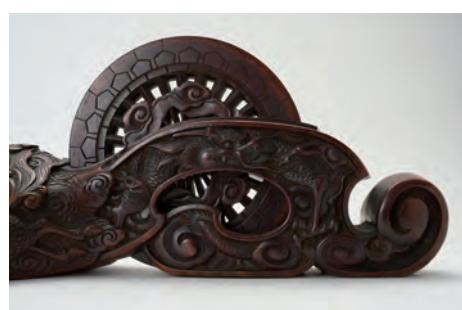
3 | 墨壺（水龍）成孝作_部分



4 | 墨壺（水龍）成孝作_側面



5 | 大墨壺「四盡」壺久作



6 | 大墨壺「四盡」壺久作_部分



7 | 墨壺（鯉丸彫り）



8 | 墨壺（鯉丸彫り）_部分

主な展示品

総展示品数
約 100 点

9 | 大墨壺「先代坪金之形」坪清作



10 | 大墨壺「先代坪金之形」坪清作 _ 部分



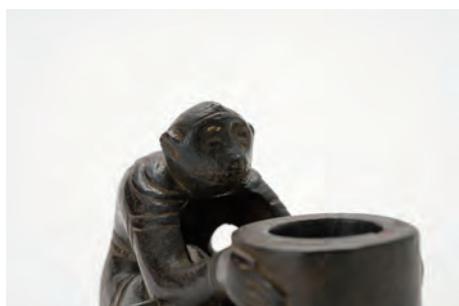
11 | 中国の墨壺



12 | 中国の墨壺 _ 部分



13 | タイの墨壺



14 | タイの墨壺 _ 部分



15 | 朝鮮の墨壺



16 | 朝鮮の墨壺 _ 部分

関連イベント

※イベントの日時・内容は変更になることがあります。
最新の情報は「Sumitsubo in One Hundred Forms / 墨壺百態」展公式ウェブサイトにてご確認ください。

実演

実演「墨壺を彫る」

日時	2026年4月12日（日） 10:00～11:30・13:30～15:00の間のお好きな時間
場所	竹中大工道具館 1F ホール
講師	田巻勇一（壺静たまき工房・墨壺職人）
参加費	無料（別途入館料が必要）
対象	どなたでもご参加いただけます ※混雑時にはお待ちいただくことがあります

申込不要



広報用画像

- ・画像データ1～16（JPEG）をご提供いたします。メールにてお申込みください。画像データをメールにて送信いたします。
- ・画像をご使用の際は必ずご案内のクレジットをご表記いただき、申請の目的以外にご使用なさらないでください。
- ・掲載記事・番組内容について情報確認のためにゲラ刷り、原稿の段階で下記事務局までメール送信ください。
- ・お手数ですが、掲載紙・誌、または録画媒体等を下記広報事務局あてに1部ご寄贈願います。

その他

- ・読者プレゼントとして当館招待券ペア（2枚）5組を提供することができます。（有効期限 2026年5月末日）
- ・その他、撮影などの取材をご希望される場合は別途事務局までご連絡ください。



日本で唯一の大工道具の博物館「竹中大工道具館」は、大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて後世に伝えていくことを目的に設立されました。常設展は7つのコーナーに分かれており、唐招提寺金堂組物の実物大模型、五感に響くハンズオン展示などを通じて大工道具の魅力をお伝えします。また博物館そのものが「匠の技の数々を肌で感じてもらえる場」となっており、建物の各所には大工や左官、瓦師などによる伝統の職人技をちりばめました。シンボリックで自己主張の強い建築ではなく、人と自然をやわらかくつなぐ存在としての「和」の建築を楽しんでいただければ幸いです。



山陽新幹線「新神戸駅」改札口より徒歩約3分
市営地下鉄「新神戸駅」北出口2より徒歩約3分
シティ・ループ「12 新神戸駅前(1F)」下車徒歩約3分
神戸市バス2系統・18系統「熊内6丁目」下車徒歩約2分